



水産情報速報版

H17.12.16 1173

静岡県漁業協同組合連合会
☎054-254-6011 Fax054-253-9343
編集・発行 = 指導部 漁政課
URL: <http://www.jf-net.ne.jp/sogyoren/>

1. 平成16年海面漁業・養殖業生産額(静岡県)は582億7,700万円、14%増

関東農政局静岡統計・情報センターが発表した平成16年の静岡県の海面漁業・養殖業の生産額は、582億7,700万円で、前年に比べ72億1,600万円(14%)増加しました。

海面漁業の生産額は559億1,300万円で、前年に比べ78億8,600万円(16%)増加しました。遠洋漁業は251億500万円で、前年に比べ58億9,900万円(31%)増加し、これは、漁獲量では遠洋カツオ一本釣が前年に比べ減少したものの、遠洋カツオ・マグロ旋網及び遠洋マグロ延縄で前年に比べ増加したことと、カツオの価格が上昇したことによります。

沖合漁業は163億3,200万円で、前年に比べ23億7,100万円(17%)増加し、これは、近海カツオ・マグロ旋網及び中・小型1そうまき巾着網の漁獲量は減少したものの、大中型1そうまき網及びアジ・サバ棒受網の漁獲量が増加したことと、カツオやマグロ類等の価格が上昇したことによります。

沿岸漁業は114億7,600万円で、前年に比べ3億8,400万円(3%)減少し、これは、大型定置網や採貝の漁獲量が増加したものの、シラスの漁獲量が大幅に減少したことに加え、中・小型1そうまき巾着網等の漁獲量も減少したことによります。

海面養殖業は23億6,400万円で、前年に比べ6億7,000万円(22%)減少し、これは、台風22号等による影響で収穫量が大幅に減少したことによります。

海面漁業の主要魚種別生産額は次のとおりです。 マグロ類：171億4,400万円で前年に比べ27億9,300万円(19%)増 カツオ：157億700万円で、前年に比べ57億9,200万円(58%)増 サクラエビ：42億400万円で、前年に比べ1億7,200万円(4%)増 サバ類：38億5,200万円で、前年に比べ1億3,400万円(4%)増 シラス：29億7,000万円で、前年に比べ13億700万円(31%)減

2. 平成17年家計調査報告(10月分)発表 魚介類は数量金額とも前年割れ

総務省はこのほど、家計支出(家計調査報告、全世帯)の平成17年10月分を発表しました。それによると、10月の消費支出は前年同月比1.1%増の30万306円と前年を上回り6ヶ月ぶりに30万円台になりました。そのうちの食料は1.3%減の7万4,696円で、魚介類の支出は1.7%減の7,337円と、食料と魚介類の10月単月の支出は過去5年間で最低の水準となりました。

生鮮魚介類では、購入量は3%減の3,584[㌘]、支出金額は1.9%減の4,504円と、数量・金額とも前年を下回りました。

鮮魚のうち消費が鈍いのが前月に続きイワシで、10月も不漁で単価が上がり購入量で28.6%減、支出金額では26.6%と大幅な減少となりました。豊漁のサバは単価が下がり購入量で11.5%減、支出金額では18.4%の減少となりました。

一方よく消費された品目のうちマグロはメジが好調で購入量が5.7%増、カツオも価格の下げが影響し購入量で47.2%増、支出金額も35%と大幅な伸びとなりました。

安全・安心な水産物供給と活力ある漁業づくりに努めよう

自立漁協の構築に向け合併・事業統合を進めよう

3. 18年度から担い手育成支援事業拡充 農林漁業新規就業者を促進

水産庁は18年度から担い手育成支援事業を拡充し、漁業就業に関心をもつ若者が生産現場で漁労活動を長期研修する新規就業者確保・育成支援事業をスタートさせる予定です。この新規就業者確保・育成支援事業は、漁業現場での長期研修(6ヶ月)によって若者の漁業就業を促進しようというもので、来年度予算額4億円を要求しています。

事業は大日本水産会が事業主体(沿岸漁業分野はJF全漁連が受託)となって、特に都市部の39歳以下のサラリーマンや若者の中で、漁業に就きたいという意欲ある人を漁業現場で長期研修し、そのうえで新規漁業就業者の確保を図ります。

具体的には、大日本水産会が実施する「雇成型」およびJF全漁連が実施する「沿岸型」があり、それぞれ漁業就業支援フェアなどで研究を希望する者に対して、大日本水産会、JF全漁連が書類審査を行います。

研修事業は担当の漁協や業種別組合が一次受け入れとしてオリエンテーション(座学研修など)を行い、二次受け入れとして漁業会社や漁家が6ヶ月にわたる長期研修を行う仕組みで、その結果、漁業者になりたい者は、雇成型の場合は漁業会社に雇用され、沿岸型の場合は漁業に着業するよう支援します。

4. 海・漁業体験活動リーダー育成研修会参加者募集

漁村文化協会では、自然体験活動に参加する漁業者や漁業関係者並びに海に関心のある人たちなどを対象に、水産体験活動などに関する研修会を実施し、地域のリーダーとなるべき人材を育成し、水産体験活動の推進をサポートをしています。

平成13年より自然体験活動推進協議会の指導者養成団体として「海・漁業体験活動リーダー育成研修会」を年2回実施し、本年度も次のとおり参加者を募集していますのでお知らせします。

名称：第10回海・漁業体験活動リーダー育成研修会 参加資格：18歳以上の男女
研修日程：平成18年2月24日(金)～26日(日) 会場：静岡市清水海洋活動センター「シーマック三保」 取得資格：漁村文化協会「海・漁業体験活動リーダー」、自然体験活動推進協議会「自然体験活動リーダー」 参加費：27,000円 申込締切：平成18年2月17日(金) 申込先・問合せ先：漁村文化協会 〒107-0052東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル TEL:03-3583-2204 URL=<http://www.gyoson.or.jp>

5. 新刊図書紹介 「さしみの科学」畑江敬子著

成山堂書店が発行するベルソープックスの新書「さしみの科学 - おいしさのひみつ」(畑江敬子 お茶の水女子大学教授著、日本水産学会監修)が刊行しました。

本書は、日本人にはなじみが深く、特徴的な文化である「刺身」や「寿司」といった、新鮮な魚介類を生で食す文化を科学的な面から解説しています。

具体的テーマでは「イカの筋肉構造」「生ウニを長持ちさせる」「さしみのおいしい食べ方」「魚介類の旬」などから、魚介類の血液サラサラ効果やトレーサビリティ・ICタグといった最近の話題にも触れています。また、直接的なものだけでなく、刺身包丁、つま、醤油などの周辺テーマにも言及しており、多角的な視点から刺身のあり方が述べられています。 四六版・172頁 価格：1,680円(税込) 問合せ先：成山堂書店

漁協系統事業の全利用運動を進め組織の強化を図ろう